

# ふるさと Something NEWS

## 第34回

### 未来史という視点

#### ——未来を歴史としてとらえる

一般社団法人 洗楓座  
一般社団法人 e f c o . j p  
代表理事 佐藤建吉

#### ▼未来史とは

筆者は、風力発電のほか技術史という技術の発展の歴史も研究分野としてきた。その対象には、本紙でも紹介した英国のエンジンニア、イザムバード・キングダム・ブルネル、また関連で産業革命や粉ひき風車も取り上げてきた。それは、現在における「技術」の獲得やそれを導いた人物や社会情勢について検討すること、過去への洞察が主な視点となる。

最近、ふとしたことから「未来史」という研究分野を思いついた。「未来」と「歴史」、相反する言葉の対照ではあるが、次のように考えると各点がいくつではないだろうか？

私たちは、未来を展望し、描く。そして語り、表現する。あるいは、それぞれが未来や将来に向けて思いをめぐらす。例えば、子供のころに、「夢は何ですか？」と問われる。「ええと、○○です」と答える。あるいは「明快に●●です」と答える子もいるだろう。そして、10年や20年が過ぎる。その間にはいろいろのことがあり、そ

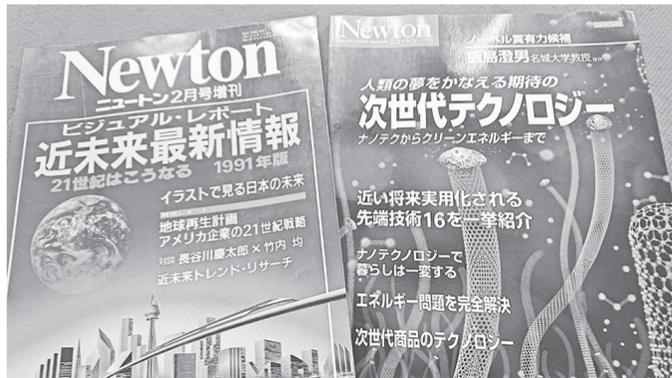
#### ▼『未来史中間』

この主題のヒントは、

1988年2月&1989年2月に発行された『Newton』誌



1991年2月&2003年1月に発行された『Newton』誌



産経新聞社「未来史観『未来史』ではない。報知新聞では、1990

年1月2日と3日の、それぞれ3面と1面に、『21世紀の予言』と題して、23項目についての未来予測記事を掲載した。そのうちの多くは、実現していた。例として、無線電通信(携帯電話)、遠距離の写真(↓電送写真)、七日間世界一周(↓航空機による世界旅行)、暑寒知らず(↓エアコン)、人声十里に達す(↓電話や防災無線、買物便法(↓通信販売)、鉄道の速力(↓新幹線)、市街鉄道(↓地下鉄や路面電車)、自動車の世(↓モーターゼーション)、電気の輸送(↓発電所と送電)などのように、□□(○○)として実現している。

#### ▼『Newton』誌は好例

筆者の自宅の書架には、『Newton』誌が何冊かある。毎月買っていた

時期もあつたが、その中から今回の主題に関わるものを上げてみよう。

同誌の1988年2月14日発行の臨時増刊号では、『21世紀はこうなる』と銘打って3部構成で、来るべき次世紀を予測している。①社会と生活、②2001年の日本、③7大戦略テクノロジー、である。さらに、資料編として④日本の未来を眺める最新データ』を掲げている。

また、翌年の1989年2月14日には、『21世紀はこうなる』PART 2として、再度日本の発展を描いている。そこで、⑤21世紀の日本、⑥21世紀のトレンド、⑦日本をかえるビッグプロジェクト、⑧日本の未来がわかる最新データ』となっている。

未来予測を過去のある時点からの時間経過により考える「未来史」となる。成功と失敗の歴史に關しては、その面では「技術史」とも重なる。

『Newton』誌は好例

#### ▼『Newton』誌は好例

筆者の自宅の書架には、『Newton』誌が何冊かある。毎月買っていた

時期もあつたが、その中から今回の主題に関わるものを上げてみよう。

同誌の1988年2月14日発行の臨時増刊号では、『21世紀はこうなる』と銘打って3部構成で、来るべき次世紀を予測している。①社会と生活、②2001年の日本、③7大戦略テクノロジー、である。さらに、資料編として④日本の未来を眺める最新データ』を掲げている。

また、翌年の1989年2月14日には、『21世紀はこうなる』PART 2として、再度日本の発展を描いている。そこで、⑤21世紀の日本、⑥21世紀のトレンド、⑦日本をかえるビッグプロジェクト、⑧日本の未来がわかる最新データ』となっている。

未来予測を過去のある時点からの時間経過により考える「未来史」となる。成功と失敗の歴史に關しては、その面では「技術史」とも重なる。

『Newton』誌は好例

#### ▼『Newton』誌は好例

筆者の自宅の書架には、『Newton』誌が何冊かある。毎月買っていた

時期もあつたが、その中から今回の主題に関わるものを上げてみよう。

同誌の1988年2月14日発行の臨時増刊号では、『21世紀はこうなる』と銘打って3部構成で、来るべき次世紀を予測している。①社会と生活、②2001年の日本、③7大戦略テクノロジー、である。さらに、資料編として④日本の未来を眺める最新データ』を掲げている。

また、翌年の1989年2月14日には、『21世紀はこうなる』PART 2として、再度日本の発展を描いている。そこで、⑤21世紀の日本、⑥21世紀のトレンド、⑦日本をかえるビッグプロジェクト、⑧日本の未来がわかる最新データ』となっている。

未来予測を過去のある時点からの時間経過により考える「未来史」となる。成功と失敗の歴史に關しては、その面では「技術史」とも重なる。

『Newton』誌は好例

#### ▼『Newton』誌は好例

筆者の自宅の書架には、『Newton』誌が何冊かある。毎月買っていた

時期もあつたが、その中から今回の主題に関わるものを上げてみよう。

同誌の1988年2月14日発行の臨時増刊号では、『21世紀はこうなる』と銘打って3部構成で、来るべき次世紀を予測している。①社会と生活、②2001年の日本、③7大戦略テクノロジー、である。さらに、資料編として④日本の未来を眺める最新データ』を掲げている。

また、翌年の1989年2月14日には、『21世紀はこうなる』PART 2として、再度日本の発展を描いている。そこで、⑤21世紀の日本、⑥21世紀のトレンド、⑦日本をかえるビッグプロジェクト、⑧日本の未来がわかる最新データ』となっている。

未来予測を過去のある時点からの時間経過により考える「未来史」となる。成功と失敗の歴史に關しては、その面では「技術史」とも重なる。

『Newton』誌は好例

#### ▼『Newton』誌は好例

筆者の自宅の書架には、『Newton』誌が何冊かある。毎月買っていた

時期もあつたが、その中から今回の主題に関わるものを上げてみよう。

同誌の1988年2月14日発行の臨時増刊号では、『21世紀はこうなる』と銘打って3部構成で、来るべき次世紀を予測している。①社会と生活、②2001年の日本、③7大戦略テクノロジー、である。さらに、資料編として④日本の未来を眺める最新データ』を掲げている。

また、翌年の1989年2月14日には、『21世紀はこうなる』PART 2として、再度日本の発展を描いている。そこで、⑤21世紀の日本、⑥21世紀のトレンド、⑦日本をかえるビッグプロジェクト、⑧日本の未来がわかる最新データ』となっている。

未来予測を過去のある時点からの時間経過により考える「未来史」となる。成功と失敗の歴史に關しては、その面では「技術史」とも重なる。

『Newton』誌は好例

#### ▼『Newton』誌は好例

筆者の自宅の書架には、『Newton』誌が何冊かある。毎月買っていた

時期もあつたが、その中から今回の主題に関わるものを上げてみよう。

同誌の1988年2月14日発行の臨時増刊号では、『21世紀はこうなる』と銘打って3部構成で、来るべき次世紀を予測している。①社会と生活、②2001年の日本、③7大戦略テクノロジー、である。さらに、資料編として④日本の未来を眺める最新データ』を掲げている。

また、翌年の1989年2月14日には、『21世紀はこうなる』PART 2として、再度日本の発展を描いている。そこで、⑤21世紀の日本、⑥21世紀のトレンド、⑦日本をかえるビッグプロジェクト、⑧日本の未来がわかる最新データ』となっている。

未来予測を過去のある時点からの時間経過により考える「未来史」となる。成功と失敗の歴史に關しては、その面では「技術史」とも重なる。

『Newton』誌は好例

#### ▼『Newton』誌は好例

筆者の自宅の書架には、『Newton』誌が何冊かある。毎月買っていた

時期もあつたが、その中から今回の主題に関わるものを上げてみよう。

同誌の1988年2月14日発行の臨時増刊号では、『21世紀はこうなる』と銘打って3部構成で、来るべき次世紀を予測している。①社会と生活、②2001年の日本、③7大戦略テクノロジー、である。さらに、資料編として④日本の未来を眺める最新データ』を掲げている。

また、翌年の1989年2月14日には、『21世紀はこうなる』PART 2として、再度日本の発展を描いている。そこで、⑤21世紀の日本、⑥21世紀のトレンド、⑦日本をかえるビッグプロジェクト、⑧日本の未来がわかる最新データ』となっている。

未来予測を過去のある時点からの時間経過により考える「未来史」となる。成功と失敗の歴史に關しては、その面では「技術史」とも重なる。

『Newton』誌は好例

#### ▼『Newton』誌は好例

筆者の自宅の書架には、『Newton』誌が何冊かある。毎月買っていた

時期もあつたが、その中から今回の主題に関わるものを上げてみよう。

同誌の1988年2月14日発行の臨時増刊号では、『21世紀はこうなる』と銘打って3部構成で、来るべき次世紀を予測している。①社会と生活、②2001年の日本、③7大戦略テクノロジー、である。さらに、資料編として④日本の未来を眺める最新データ』を掲げている。

また、翌年の1989年2月14日には、『21世紀はこうなる』PART 2として、再度日本の発展を描いている。そこで、⑤21世紀の日本、⑥21世紀のトレンド、⑦日本をかえるビッグプロジェクト、⑧日本の未来がわかる最新データ』となっている。

未来予測を過去のある時点からの時間経過により考える「未来史」となる。成功と失敗の歴史に關しては、その面では「技術史」とも重なる。

『Newton』誌は好例

#### ▼『Newton』誌は好例

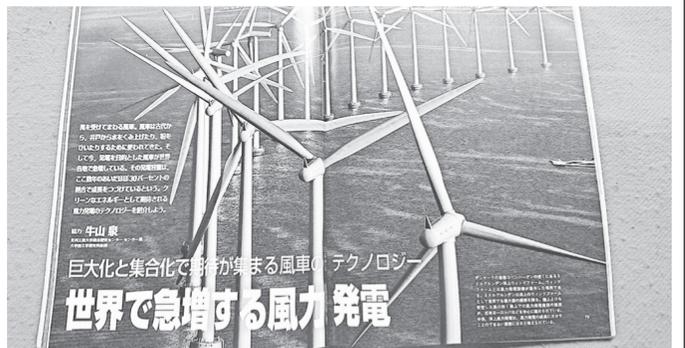
筆者の自宅の書架には、『Newton』誌が何冊かある。毎月買っていた

時期もあつたが、その中から今回の主題に関わるものを上げてみよう。

同誌の1988年2月14日発行の臨時増刊号では、『21世紀はこうなる』と銘打って3部構成で、来るべき次世紀を予測している。①社会と生活、②2001年の日本、③7大戦略テクノロジー、である。さらに、資料編として④日本の未来を眺める最新データ』を掲げている。

また、翌年の1989年2月14日には、『21世紀はこうなる』PART 2として、再度日本の発展を描いている。そこで、⑤21世紀の日本、⑥21世紀のトレンド、⑦日本をかえるビッグプロジェクト、⑧日本の未来がわかる最新データ』となっている。

2003年9月発行『Newton』(p.78/79)



#### ▼風力発電の未来史

『Newton』では、風力発電について、2003年9月号でも8ページにわたり、解説している。それは、「世界で急増する風力発電」という時代背景に後押しされたもので、2003年4月1日、日本では「新エネルギー利用特別措置法」が施行された。これは電力会社が販売する電力の一定量を、風力発電や太陽光発電などの「新エネルギー」でまかなうことを義務づけるものだと期待感を述べている。

この写真は、今後、詳しく分析したい。

#### ▼中国・上海の未来史

筆者が注目した中国の例は、揚子江河口にあり、上海の食糧生産基地の崇明島の開発である。この島の未来づくりは、エコアイランド(生態環境島)

上海市の未来都市建設の計画体系(2003年7月発行)

の写真が掲載された。これは、当時の洋上風力発電のシボルの実践例であった。これも「未来史」となる。同時に、欧州の風力発電プロモーション組織のEWEAやGWECなどの風力発電に関する未来予測も、10年、20年後から見れば「未来史」となる。

EWEAとグリーンピークスは、「ウインド・フォース12(WF12)」という21世紀を展望した風力エネルギーの導入シナリオを発表していた。筆者は、WF12の全文を、『風力発電の未来史』に収録している。



『註1』佐藤建吉、「風力エネルギー」、「ウインド・フォース12の紹介」、第1回26(4)、2002年10月、第2回27(1)、2003年1月、第3回27(2)、2003年2月、第4回27(3)、2003年3月、第5回27(4)、2003年4月。

の建設であり、国家主導で急速に巨大に推進された。風力発電開発も英国と中国の2国間連携が進められた。開発が急速であるが、国家体系の歴史からは、やはり「未来史」としてとらえることができる。